



語り合いの場が まちに未来の種をまく



令和2年度の公開講座は、埼玉県で「ヘルシーカフェのら」という誰もが来られる居場所を作り、そこを拠点として様々な活動を行う、新井純子さんをお招きし開催いたしました。

第1部は、新井純子さんによる講演会、第2部では、合同会社のら 私募債協力者の新井 秀明さん、女性と防災の会 代表の小國 恵子さん、桑原地区 まちづくり協議会 副会長・事務局長の朝山 和孝さんと共にトークセッションを行いました。

9月19日
(土) 開催

第1部 講演会

講師：合同会社のら 代表社員

新井 純子 さん



【講師プロフィール】

ヘルシーカフェのら店主。平成10年大宮市で女性の自主学習グループ「あれあれあ」を結成し、多くのワークショップを開催。これらの経験と周囲からの応援もあり、住んでうれしいまち、誰もが主役で、助けたり助けられたりできる地域づくりをめざし、平成21年から「ヘルシーカフェのら」を運営。様々な「食」と「おしゃべり」の空間が作られ、多彩なネットワークが広がっている。

自分自身の子育て体験

- ・孤独な子育て
- ・男女の不平等感
- ・自分と世の中を知る



「困った」
「何だかおかしい」

どの人も、住んで嬉しい街にしたい！
横断的な課題解決の場づくりが必要！

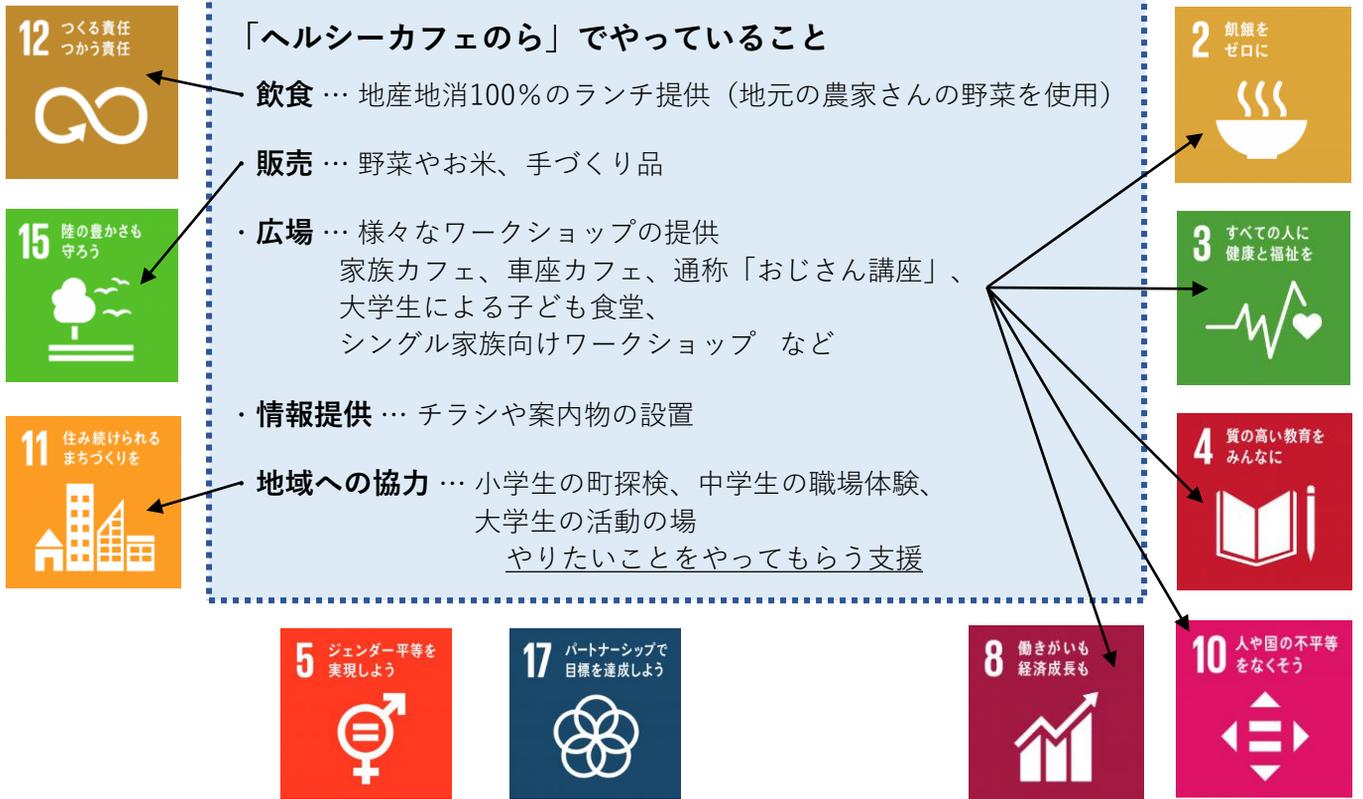


平成21年

「ヘルシーカフェのら」開店

埼玉県さいたま市
火～土曜日 11:30～17:00
ときどき夜の営業





- 地域に住んでいる人は多種多様で魅力的な力を持っている
- 力を出しあうために「つながる」「つなげる」
- 気がついた人がはじめる
- サービスを受けるばかりでなく、「誰か」「自然」のために力を使う



**小さな行動を起こし
「場」を作れば、人が集まる**



☆新井さんはのらの活動を、SDGsの「17の目標」にも絡めてお話していただきました。

SDGsとは？

「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で、世界のリーダーによって決められた国際社会共通の目標です。

一見難しい目標のように感じますが、SDGsには身近な問題が相互に関わっています。まずは、自分たちの日々の行動や考え方がSDGsのどの目標に繋がっていることなのかを考えることが、持続可能な開発、より良い未来に繋がっていきます。

第2部 トークセッション

「私、家族、地域から 踏み出そう共同参画への一步」

第2部では、4人のゲストの皆さんにご登壇いただき、トークセッションを行いました。

新井秀明さんは、退職後、繋がりの中で気づいたことについて、小國さんと朝山さんには、現在松山の各地域で取り組んでいる活動の紹介とその想いについてご説明いただき、それに対して新井純子さんから感想などお話しいただきました。

今回の講演・トークセッションが、“私、家族、地域から”一步踏み出すきっかけになれば幸いです。



合同会社から 代表社員 新井 純子さん

エッセンシャルワーク=生活に関わる仕事はやめられない。
行政や国が言うことだけを信じて、自分が右往左するのは無理があると思います。リアルな状況を見ながら、自分ができてる事を考えて行動する、行動したことに対しては自分が責任を負いますよというスタンスが、さらにできるようになったかなと思います。
また、サービスを受けるだけではだめだなと実感しました。一人ではできないなら、人と話す。つくづく、話をする場は必要だなと思います。



合同会社から 私募債協力者 新井 秀明さん

・今年6月末退職→7月から、のらの清掃担当に。準備の一端を担うようになりました。
・地域貢献としては、消防団や自治会の自主防災会の役員等もしている中で、ボランティアをしている多くの女性の方とお話する機会が増えました。私のように何も知らない人が世の中にはまだまだたくさんいると思うので、どんどん話の輪を広げていかなければいけないと思っています。
・コロナ禍のニューノーマル→みんなが考えるチャンス、新しい社会を作るきっかけになるのではないのでしょうか。

女性と防災の会 代表 小國 恵子さん

・活動のきっかけは、阪神淡路大震災の活動の報告を聞いたこと。女性がとてもつらい状況だったということを知り関心を持ちました。そこから防災士の資格を取り、自分たちが知りたいと思ったことをグループで学び始めました。
・地域の自主防災組織にも関わっている中で、「会計担当は女の人に」という発言に対して「皆さん仕事を持っているんだから、性別に関わりなくできる人がやればいいのか」→そこから3年間会計担当、運営に関わることに。自主防災組織は、10歳~70歳代まで男女半々が参加。みんなで話し合い、気になることを言い合えるように。組織に女性が増えると、女性の意見が出やすくなる。
・『互近助』⇒向こう3軒両隣が助け合う。自分の命と大切な人を互いに守りあうことが大事。こんな時だからこそ地域で話し合う、近所を散歩して地域を知る。
・災害時を生き抜くためには、暮らしの視点を持つ女性のリーダーが必要！女性が黙ってはいけません。



桑原地区 まちづくり協議会 副会長・事務局長 朝山 和孝さん

・平成22年設立。「私たちの町は私たちが守り育てよう」を合言葉に、住民が町づくり活動に参加しやすい環境を整えてきました。最初にフリーマーケットを開催。
・青壮年有志の会、桑原ジェンヌ（女子会）、学生部などが活動。
・役員会のメンバーは、37%程度が女性で、ボランティア活動経験者が多い。
・まちづくり=プラットフォーム 人々が集まって意見交換できる場を提供し、それを事業に活かしていく、それがまちづくりなのか。できるだけ女性の意見を聞きながら、男性の意見はほどほどに。
・最初からあきらめない、まずはやってみる、失敗を恐れない、だめと言わない



参加者の感想

多くの方に感想をご記入いただきました。
ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

当日の様子は、愛媛CATVでも放映しております。
今回参加できなかった方もぜひご覧ください。



・新井秀明さんの家族との接し方を聞くと、プラットフォームとしての家族とどう関わるか参考になりました。(50代・男性)

・ご夫婦での参加がとても新鮮で良かったです。色々な角度のお話が聞けて良かったと思います。(60代・女性)

・新井さんの前向きな生き生きとした取り組みが、どんどん「新しい種」をまくことにつながり、その種がさらにどんどん新たな実をつけ、新たな種を生むことにつながっていると痛感しました。(60代)

・新井さんのカフェに行ってみたいと思いました。(70代・女性)

・小國さんのお話が興味深く、今度は女性と防災の会主催の行事に参加してみようと思いました。私も防災士の資格を持っていますが、家のある地域の防災とはつながっていません。何か協力できれば...と思いました。(50代・女性)

・防災士にとっても興味がわきました。防災キャンプを家庭から始めてみようと思います。自分に出来る小さな事から始める、その背中を押してもらえたように思います。(60代・女性)

・小國さんの「自助・共助・互近助」の発想が素晴らしいです。コロナ禍だからこそ「互近助」大切です！(60代)

・まちづくりに興味がありまして参加しました。新井さんの「私にできる事をやっているだけ」という自然体な活動がとても励みになりました。朝山さんの活動にも「こういう思いを持ってまちづくりをしている人が松山にいる」という気づき、自分のまちの協議会もあるのか、調べてみようと思いました。(40代・女性)

・最初の一歩で小さい輪が徐々に大きくなる成功を紹介してもらえました。参考になるお話を聞けて良かったです。(40代・女性)

・行動を起こすことが大事と改めて感じました。また、周りの力をうまく活用することも参考になりました。(40代・男性)

・自分に出来る小さな事から始める、その背中を押してもらえたように思います。(60代・女性)